

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題  
中間評価報告書

研究開発課題名	薬用植物のオリジナル栽培技術および新たな品質評価技術の実用化に基づく「薬用植物地域エコシステム」の提案
代表機関名	国立大学法人熊本大学
研究開発代表者名	三隅 将吾
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120237.pdf>

2. 総合評価

- ・優れている

【評価コメント】

「薬用植物地域エコシステム体制」の構築に向けて、ミシマサイコ、ウラル・スペインカンゾウ、シナニッケイの栽培検討、優良カンゾウの遺伝子型検出、線虫防除法開発、新規薬効探索、品質管理方法開発など、多岐にわたる課題について計画に沿って進められてきており、成果が着実に得られている。

栽培検討で得られた成果を、九州地域以外の地域でも応用展開することも視野に検討をさらに進めること。新規薬効探索や生物活性を指標とした品質管理方法は、実践場面を想定し、開発を進めること。また、生物活性による品質評価は、ヒトへの外挿性も含め、生薬成分としての臨床的な価値向上に向けより科学的な観点を取り入れて妥当性を明確にすること。さらに、今後予定の製品化検討は、企業の要望も取り入れて、研究期間内での成果の最大化に向けて連携して進めること。

以上